

## 放送グループの検討状況

### 1. 放送グループの検討課題

- (1) 同一地域内の所要チャンネル数が客観的に判断できる資料を提出すること。
- (2) 検討にあたっては、限られた帯域(VHF帯のローバンド18MHz幅を含む $30 \pm 5$ MHz幅)を如何に使うかという観点から、放送用途といった包括的な目的のために、トータルとしてどの程度周波数が必要なのか、技術、方式等による周波数的な重複が発生しないよう検討すること。

### 2. 放送グループの検討状況

#### (1) 放送アドホックの開催

- ・ 3月8日 第1回放送アドホック  
放送グループとしての所要チャンネル数の検討、および所要帯域幅の検討
- ・ 3月22日 第2回放送アドホック(予定)  
第1回放送アドホックのまとめ、および具体的なサービス例、事業性の検討

#### (2) 第1回放送アドホックの検討状況

- ・ 多チャンネル放送に対するユーザーニーズについて、実施時期や実施方法が異なる3種類の調査結果が示され、どの結果についても、ユーザー1人あたり20～30種類の番組ニーズがあることが分かった。
- ・ 移動体・携帯端末への放送サービスであることから、よりパーソナル化、多様化のニーズがあること、また、多数のユーザーに同時にサービスする放送形態を考慮すると、放送全体として100種類のニーズがあると考えられる。
- ・ また、放送の公共性から災害報道へのニーズは必須であり、地域放送の実施は不可欠である。地域放送を実施するためには、隣接地域での干渉を排除するため、より多くの周波数が必要となる。
- ・ 審議の結果、多彩な情報の提供に向け、編成・技術・運用上工夫を凝らすことにより、ユーザーの利便性を損なうことなく、可能な限り必要周波数を削減し、放送アドホックとしては、35MHzの帯域幅(但しガードバンドを内側に含む)を提案することが承認された。

#### (3) 今後の課題

- ・ 周波数位置を確定するためのガードバンドについての検討。
- ・ 具体的なサービスラインナップ、および事業性の検討。

以上